

「ジェネリック医薬品」で薬代を節約しよう

■問い合わせ：保険年金課保険グループ☎内線 262

昨年6月に、国民健康保険に加入している方の医療費負担の軽減と市の保険財政の健全化を図るため、一定の条件を満たした方に「後発医薬品（ジェネリック医薬品）に関するお知らせ」（ジェネリック医薬品差額通知）をお送りし、ジェネリック医薬品に切り替えた場合の軽減見込み額をご案内しました。

今回は、通知後の軽減効果についてお知らせします。

「ジェネリック医薬品とは」

最初に作られた薬（先発医薬品：新薬）の特許期間終了後に、有効成分・用法・効能・効果が同等の医薬品として厚生労働省の認可を受けて製造されたお薬です。

- 通知対象月：平成28年10月処方分
- 通知人数：526人

このうち、平成28年10月にも同一薬効・剤形の医薬品を処方された方（効果測定の対象）で比較してみると…

効果測定対象人数	379人
ジェネリック医薬品に切り替えた人数	34人 (9.0%)
自己負担削減額	△35,269円
保険者（市）負担削減額	△142,181円

切り替えた本人が節約できた金額（1カ月あたり）

→これが1年間続くと仮定すると…
35,269円×12ヶ月＝**423,228円の節約!**
(一人平均12,448円/年)

市が節約できた金額（1カ月あたり）

→これが1年間続くと仮定すると…
142,181円×12ヶ月＝**1,706,172円の節約!**

国の取り組み

ジェネリック医薬品の数量シェア目標

- 平成29年度までに70%以上
- 平成30年度～32年度末の早い時期に80%以上
- ※龍ヶ崎市の平成29年1月処方分＝68.17%（県内22位）

「差額通知」は、今後も継続して実施します。ジェネリック医薬品への切り替えを希望する場合は、必ず主治医に相談してから切り替えてください。



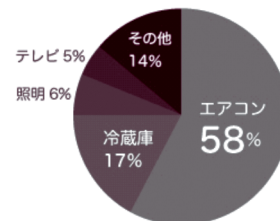
家庭でできる夏の節電対策

■問い合わせ：環境対策課環境政策グループ☎内線 421

夏は、家庭の消費電力のうち、エアコンの割合が6割を占めています。昼は外出している家庭でも、冷蔵庫やテレビなど多くの待機電力を消費しています。

今夏の気温は高めが予想されているので、エアコンの利用頻度も増えると思われます。電気代の節約もでき、省エネにもつながる主な節電対策を紹介します。エアコンの控えすぎによる熱中症などに注意し、無理の無い範囲で節電に取り組ましましょう。

夏の日中(14時頃)の消費電力(全世帯平均)



(資源エネルギー庁の推計)

室内への日差しをカット

「緑のカーテン」や「すだれ」「よしず」などを利用して、太陽の熱を室内に入れないようにしましょう。

※緑のカーテン＝窓など建築物の外側に植物を生育させることで、建物の温度上昇を抑える手法です

エアコンのフィルターを掃除しよう

フィルターは2週間に一回程度掃除をしましょう。ごみやほこりで目詰まりしていると、冷房効果が低下してしまいます。

扇風機を併用しよう

エアコンだけでなく扇風機を併用すれば、エアコンの冷気が効率よく循環されるので、冷房効率もアップします。

その他のポイント

- 冷蔵庫には詰め込みすぎない
- 照明をLEDに変える

//////////////////// みんなで「クールシェア」しませんか //////////////////////

エアコンの使い方を見直し、涼しい場所をみんなで共有したり、暑さを忘れて過ごせる場所に集まったりするのが「クールシェア」です。公園や図書館などの公共施設のほか、地元のお店などの協力で、みんなでCOOLをSHAREしましょう!

**COOL
SHARE**